

平成 29 年 1 月の解説（府県天気予報）

【1月の天候状況】

上旬は、冬型の気圧配置が弱く、寒気の南下が弱かったため、全国的に気温の高い日が多くなりました。沖縄・奄美では旬平均気温が平年差+3.3 となり、1961 年の統計開始以来 1 月上旬として 1 位の高温となりました。低気圧や前線の影響も受けにくかったため、北日本太平洋側を除き日照時間が多くなりましたが、7 日から 9 日にかけては低気圧が発達しながら東シナ海から関東の東へ進み、東・西日本太平洋側を中心にまとまった雨や雪となりました。特に、河口湖（山梨県）では 9 日に 43cm の積雪となるなど、関東甲信地方では内陸部を中心に大雪となりました。

中旬は、冬型の気圧配置が強く、全国的に寒気が流れ込んだため、日本海側では雪の日が多く、太平洋側では晴れた日が多くなりました。特に 14 日から 17 日にかけてはさらに強い寒気が南下し、日本海側では東北地方から山陰にかけて大雪となったほか、広島（広島県）で 15 日に 19cm の積雪となるなど、太平洋側でも大雪となったところがありました。このため、各地で交通障害や農作物・農業施設等への被害が発生したほか、落雪や除雪作業中の事故による人的被害が発生しました。

下旬は、旬の前半は、22 日に北日本を低気圧が通過した後、冬型の気圧配置が強まり、全国的に強い寒気が流れ込みました。特に西日本日本海側では智頭（鳥取県）で 24 日に 111cm の積雪となるなど大雪となり、鳥取県などで多数の車両が立ち往生しました。旬の後半は冬型の気圧配置が緩み、日本付近には南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、全国的に気温が高い日が多くなりました。29 日は九州地方、30 日は関東地方を中心に、日最高気温が 20 を超えて平年より 10 以上高くなったところもありました。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高くなりました。西表島（沖縄県）で月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新しました。月降水量は、沖縄・奄美でかなり少なく、北日本で少なくなりました。留萌（北海道）、宮古島（沖縄県）で月降水量の少ない方からの 1 位の値を更新しました。月間日照時間は、西日本でかなり多く、北日本日本海側と東日本で多くなりました。降雪の深さ月合計は、北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と東日本日本海側で少なくなった一方で、西日本太平洋側で多くなりました。また、月最深積雪は、西日本で多いところが多くなりました。

【1月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^{（注）}より 2 ポイント高い 84% で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 82% でした。各地方の適中率では、明日予報については、概ね例年と同様でした。明後日予報では、関東甲信地方と九州南部地方で 6 ポイント高くなった他は概ね例年と同様でした。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.2 となり、全ての地方で例年値より小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.4 となり、全ての地方で例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の天気予報の利用にあたって】

3 月になると日本付近で冬型の気圧配置が続くことは少なくなり、高気圧と低気圧が交互に通過して、数日の周期で天気が変わることが多く、気温の変動が大きくなります。また、低気圧が急速に発達して通る「春の嵐」の際には、突風や強風に注意が必要です。最新の天気や気温の予報を利用して、災害の防止や健康管理等に役立てて下さい。